

思う。一見馬鹿げたように思えるが、例え失敗しても、自分自身は、最善の努力をしたという満足を得られるし次の様々の出来事に対する糧となるからである。全て経済が万能となり、棄する事が至上となった時、〃こうこつの人〃ではないか、金を稼げない親は、邪魔物となりおむつや食事の世話をしていたのでは案が出来ないのでほったらかしの、〃姥捨山〃となり、親が被害者、子が加害者となり、子が年老いた時又しかし、加害者が被害者となるのではないだろうか。

経済発展、知識過多の谷間に入ってしまった〃徳育〃をもう一度見直し、徳育が、経済、知恵と徳育を子供に残してゆくには、自分自身の努力はむろん、公害との闘いが果しないように、子供との果しない闘いを続けてゆく必要があると思う。息の長い話しであるが、このことも公害駆除の一助と考えている。

ふるさどに入りてまず心傷むかな

道広くなり橋もあたらし

啄木

水によせる郷愁

瀬古沢登み

久しぶりで、川口町の実家へ足を伸ばし、思わずアツと出る声をおさえかねた。それ程にも我が出生の町は変貌を遂げているのである。数々の想出を残したあの川が埋め立てられ、駐車場になっただけでも胸が痛むのに、すぐ前には、何階建かのデパートが出現し、派手派手しい小旗のひるがえる下を、人がひっきりなしにひしめいており、車は又、おそろしい程の込みようで、全神経を集中して歩いていてさえ引殺されそうになる。

一体これは、誰が何の権限を持って、かくまでも我が街を殺人的な喧騒に作り変えたのか、全く持ってアゼンとする他はない。

昔はこの川口川は、前川町の方から流れついでいて、それ程汚れてもいなかったし、ゆったりと流れ、柳が情緒をそえていた。川口駐車場前の三平鮎あたりまで、川波をチャップ、チャップいわせて、定期の蒸気船が上って来た。橋は八千代橋、桜橋、朝日橋等が架っており、関東銀行前にも小さな橋があった。

川の上に、バラックの店屋が軒をならべ、破れ籠子に